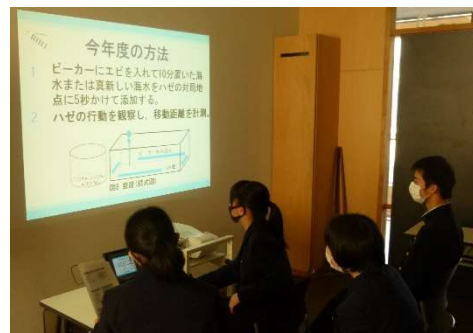


福井県合同課題研究発表会 参加報告

- ◇期 日 令和3年2月11日(木・祝)
- ◇場 所 福井県立高志高等学校(本会場)
本校探究ゼミ室(オンライン参加の為)
- ◇参加者 SS生物部生徒8名
- ◇指導者 SS生物部顧問 真野佳余先生 山下卓弥先生

福井県合同課題研究発表会とは、福井県内の小・中・高等学校を中心に、課題研究に取り組む学校の生徒を対象とした研究発表の場である。例年はふくいサイエンスフェスタと同日に同会場で開催され、午前中に著名な科学者による講演を聞き、午後から生徒が研究発表を行うという形になっている。しかし今年度は、新型コロナウイルスの影響で講演が行われず、研究発表も本校はオンラインでの参加という異例の形となった。電子機器の操作について、生徒は事前に山下先生から講習を受けて発表会に臨んだ。

当日は2つの班がそれぞれ「トミヨの環境DNAの検出と生息環境について」と「ハゼ科魚類とテッポウエビ類が共生に至るまで」という題でプレゼンテーションソフトを用いた口頭発表を行った。面と向かってではなく画面越しの発表となり、聞き手の姿が見えないことへの違和感があった。また、慣れない機器の操作にも苦心した。しかし、その中で出来る限り良い発表をすることはできたと思う。



発表では対面で話すことができない分、普段以上にゆっくり丁寧に分かりやすく話すことを意識して説明した。質疑応答についてはやはり、質問の内容を的確に理解して答えることが非常に難しかった。想定していなかった質問にうろたえてしまったのが反省点である。また、他校の生徒からは初見故の新しい質問や、研究者ならではの鋭い指摘もあり、今後の研究の材料を新たに見付けることができた。



他校の発表も聞くことができ、生物という同じ大きな枠組みの中でも、自分たちのものとは全く異なる題材の研究には強く興味を引かれた。学校によって発表の方法(口調、スライドの作り方、質問への回答等)にも違いがあり、今後の発表の参考になった。

今回の研究発表会は県外の生徒と関わる貴重な機会であり、発表者としても聞き手としても学ぶものが多かった。特に、発表者としては、研究の点でも発表の点でも今回多く得たものを今後に活かしていこうと思う。また、慣れない形態での発表だったが、今後もオンラインでの発表が行われることを考えると良い経験になるだろう。全体を通して非常に有意義な1日に。